

## 第 11 回 川越市総合計画審議会 議事要旨

**1. 開催日時** 平成 22 年 11 月 18 日（木）午後 4 時 00 分～午後 4 時 20 分

**2. 開催場所** 川越市役所 7 階 7AB 会議室

### **3. 出席者**

立原、梶川、岩崎、大河内、岡田、小室、櫻井、高田、長井、牛窪、山木、関口、小野澤、柿田、近藤、吉田、倉嶋、江田、中島、嶋村、關、土橋の各委員

### **4. 会議の概要**

#### **1 開会**

#### **2 会長あいさつ**

3 月より開催して来た当審議会も、委員の皆様のご協力により答申がまとまり、ようやく本日、市長にお渡しできる運びとなった。思い返すと、第 1 回目に委員の皆様とお会いしてから、約 8 か月、全 11 回、延べ 23 時間に及ぶ長い時間をかけて議論を行って来た。委員の皆様からは、多くの意見と闊達なご議論を頂き、お陰で、立派な答申案が出来たと思っている。自分も会長として、川越市の第三次総合計画後期基本計画に携わり、大変幸せに感じると同時に、難しさも覚えた。

持続可能なテーマは何かということで、2000 年、2010 年と 10 年スパンでよく話題になるが、地球サイズで考えると、環境問題、脱 CO<sub>2</sub>、そして、地域ということになるだろう。国内においても、国から地方へということで、まさに、そのようなサステナビリティの時流に乗っているのではないかと考えている。世界の流れを見ても、欧米大国から中国、インドへとシフトして来ており、新しい新興国も出現し、やはり地域の問題が大きなテーマとなって今日に進んで行くものと思われる。そこに、最近の混沌とした社会情勢や経済状況も絡んで、都市の経営や運営に大変難しい事態を生じさせているということをつくづく実感した。

本施策の実施は、平成 23 年から 27 年の 5 年間ということであり、ここにご参集頂いた皆様には、是非、温かい目で、今後の 5 年間を見守って頂きたい。

本日は、委員の皆様にご最終のご確認をして頂き、市長への答申をさせて頂きたい。

#### **3 報告**

事務局から配布資料の確認と資料説明が行われ、答申案に関して、次のような意見交換が行われた。

#### 4 議事

##### 【主な意見交換及び質疑応答】

##### (1) 答申について

- 確認であるが、資料 p 5、(10)「地下水率の向上及び漏水率の改善を図り、水道事業の安定化と水道水の安定供給に努められたい。」とあるが、「地下水率」という言葉は、以前は「自水率」となっていたが、解釈上、同義ということで良いか。
- ・審議会のなかでは、自水率という表現でご意見等頂いたところであるが、HP 等を見ると、通常では使用されておらず、本市の場合、県から購入する水と地下水ということなので、いわゆる自水とは地下水を指し、地下水率という言葉を使用させて頂いている。
- 知人から、市役所の前を真っ直ぐ行ったところに、自転車道路というものがあり、その先の信号の所に行くとならなくなり、自転車がどこを走って良いのか分からず、尋ねて来て欲しいと頼まれたので、教えて頂きたい。
- ・本日は、担当がおらず、申し訳ないが、後ほど調べてご連絡させて頂く。
- それでは、以上この内容で審議会として答申を行うことでよろしいか。
- はい（委員一同）

#### 5 答申

立原会長より、川合市長へ答申を行った。

#### 6 閉会